

このたび、令和4年2月28日に78歳で亡くなった兄の遺志により、日本赤十字社兵庫県支部に寄付をさせていただきました。

兄は令和4年1月15日に道路で倒れ、近くにいた方が兄の携帯電話の連絡先を見て、電話をかけてきていただきました。病院に入院してから、1年半ほどで旅立ってしまいました。肺がんでした。

35～36歳ぐらいまで大手薬品会社の研究所で商品開発に従事しており、薬を飲むことでたくさんの人々に元気になって欲しいと願いながら一生懸命に頑張っていたようで、新薬の開発にも大きな貢献をすることができたようです。兄が働いていた部署は、毎日が人のいのちに関わる仕事をおこなっていたこともあってか、性格はすごく頑固で自分にはひととき厳しく、私の言うことには全く耳を傾けてくれることはありませんでした。職場では仲間と協力し合うというよりも、黙々と一人で仕事に打ち込むのが性に合っていたようです。

自然が好きで、お酒もたばこも好きでした。特に山に登ることを趣味として、北アルプスへ一人でよく出かけて行っていました。頂上に向かって一步一步登っていくことで達成感を感じ、頂上から望む景色のすばらしさの虜になっていたようです。

また、兄は私の子どもたちを何度も王子動物園に連れて行ってくれましたが、入園すると子どもたちを置いて一人で先へ先へと進み、途中で筋トレをしながら待っているという少しお茶目な一面ものぞかせていました。

そんな兄でしたが、志として少しでも人の役に立ちたいと常に秘めていたようで、ユニセフや国境なき医師団など色々な所への寄付を考え、亡くなる前から寄付先や寄付額を書き出して全て準備していました。赤十字へは、兄が住んでいたマンションを売却した代金を寄付させていただきました。これも兄が生前から決めていたことです。

先日、表彰状等をお送りいただきましたが、兄が生きている間に受取ることができていたら、どんなにか本人も喜んだことだろうと思います。

兄が亡くなってから、私の子どもたちにも手伝ってもらいながら遺産などの整理に追われて今日までできました。一時はその手続きの大変さにグチめいた言葉を口にしたこともありましたが、やっと兄に対して十分なことができたかな？と思います。

そして、兄が心に描いていた想いを、寄付をさせていただいた団体様の活動をとおして叶えていただければこれに勝る供養はないと思っています。

(播磨町 J.K)